

青森県立郷土館整備検討会議 (第4回)

【配布資料一覧】

資料 番号	資料名
1	第4回出席者名簿
2	第4回会議資料

青森県教育委員会

青森県立郷土館整備検討会議第 4 回出席者名簿

	氏 名	役 職
博物館	葉山 茂	国立大学法人弘前大学 人文社会科学部 准教授 議長代理
	半田 昌之	公益財団法人日本博物館協会 専務理事
	山田 泰子	八戸市美術館 美術専門監
日本文化 地方文化	川守田 礼子	学校法人八戸工業大学 感性デザイン学部 教授
観光・国際	高坂 幹	公立大学法人青森公立大学 理事長
社会教育	西川 智香子	元特定非営利活動法人コミュニサーあおもり 理事長
デジタル アート	佐々木 遊	asobis 代表
報道機関 メディア	小山田 文泰	青森放送株式会社 役員待遇報道局長
まちづくり	竹中 恵理	青森県青年国際交流機構 会長

(敬称略、順不同)

青森県立郷土館整備検討会議 これまでの検討内容の整理 (中間まとめ) について

青森県教育庁文化財保護課

令和7年 9月19日

目次

I. はじめに

II. これからの時代に求められる県立博物館について

1 新たな県立博物館のコンセプト

2 新たな県立博物館の役割

ア. 展示

① 自然との共生

② ふるさとのあゆみ

③ 変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝

イ. 教育普及

ウ. 収集・保存

エ. 調査・研究

3 期待する成果

III. 新たな県立博物館の整備場所候補地について

○ 整備場所候補地の基本的な考え方

I. はじめに

本会議では、青森県教育委員会による県立郷土館整備に係る基本計画策定に向けて、県立の総合博物館が果たすべき、展示、教育普及、収集・保存及び調査・研究といった4つの役割や効果的な展示手法等とともに、整備場所候補地の基本的な考え方などに関する議論を行い、これからの時代に求められる県立博物館や新たな県立博物館の整備場所候補地について取りまとめました。

本検討会議での議論を踏まえ、県民の皆様に愛され、こどもたちがふるさと青森に愛着と誇りを持ちながら自身の未来を切り拓いていくことができるよう、主体的に学び続けることができる場として、新たな県立博物館の整備が実現することを期待するものです。

令和8年 月 日

青森県立郷土館整備検討会議

議長 工藤 清泰

Ⅱ. これからの時代に求められる県立博物館について

1 新たな県立博物館のコンセプト

めざす姿 **ふるさとをつなぎ未来をつくるミュージアム**

見る・知る・学ぶ「静」と、
体感する・活動する・発信する「動」により、
ふるさとの自然・歴史・考古・民俗などの宝物を守り、特色や
価値・魅力を未来へ伝える。

1 新たな県立博物館のコンセプト

○ 見る・知る・学ぶ「静」

青森県の宝物の特色や価値を見やすく、分かりやすく提供

○ 体感する・活動する・発信する「動」

青森県の宝物を五感で捉え、様々な世代、人々と広く共有

○ 守る・伝える

青森県の宝物を守り、調査・研究成果を様々な機会を捉え公開

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

- 青森県の各地域には地形・気候による自然環境の特性があり、その特性を基に地域ごとの歴史が成立、多彩で豊かな文化が育まれてきた。この特性の異なる地域が融合して今の青森県がある。
- 青森県の豊かさは、歴史・文化を広い視野で総合的に捉え、背景となる自然環境との関わりを説明することで、より理解が深まる。
- このことから、新たな県立郷土館では、背景となる自然環境と歴史・文化を融合させた総合的な展示を

①自然との共生

②ふるさとのあゆみ

(近世「津軽領と南部領の成立」～現代)

③変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝

として展開する。

展示手法

- リアルとデジタルを融合
- 現地にいるようなライブ感・没入感を体感・体験
- ダイナミックな展示

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

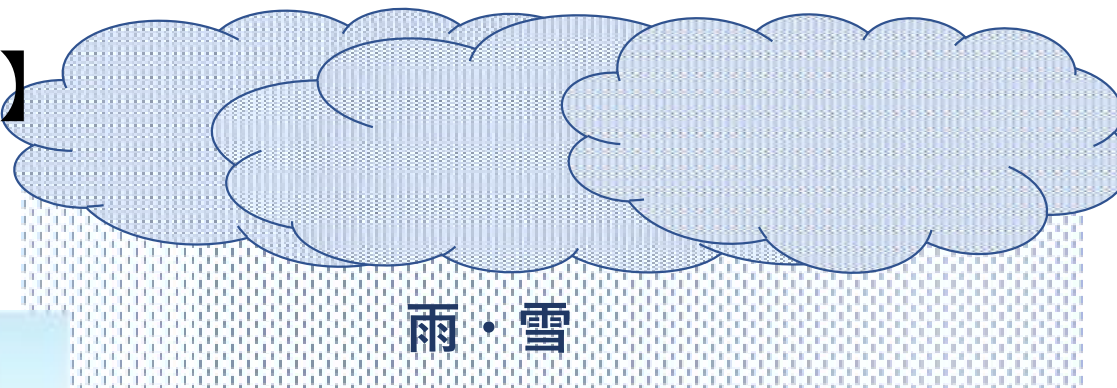
【① 自然との共生】

変化に富む四季の中で育まれたあおもりの豊かさを伝える

白神山地（世界遺産）、八甲田山（十和田八幡平国立公園）、津軽平野、上北平野、三方を囲む海と陸奥湾、本県を北限・南限とする生きものなどの**多様な自然環境**と、変化に富む季節の中で育まれた**祈りや祭り・食・生業**などのふるさとの豊かさを伝える。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【① 自然との共生】



山

山岳信仰、山菜、林業
登山、温泉、紅葉

平地

水神様、虫送り
秋祭り、農業、畜産

海

天妃様・龍神様
漁業、養殖業

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【① 自然との共生】 (展示例)

山

岩木山 お山参詣



山菜、温泉、漆・津軽塗

平地

津軽平野 米・虫送り



桜、リンゴ、ねぶた・ねぶた

海

日本海 鹿島祭



スルメイカ、ハタハタ

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】

人(ヒト)・物(モノ)で本州北の玄関あおもりの今と昔を伝える

アジア大陸の**北東沿岸部**や**列島南北**との交流、津軽と南部という自然、風土、歴史的背景が異なる地域を併せ持つ**あおもりの**くらし、映像や写真、絵図、版画等先人たちの足跡などふるさとの歴史を伝える。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】

古代のあおもり

弥生時代



カップ土器

古墳時代



蕨手刀

中世のあおもり

鎌倉時代



青磁浮牡丹文香炉

鎌倉時代



板碑

近世のあおもり

近代のあおもり
青森県の誕生

現代のあおもり

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

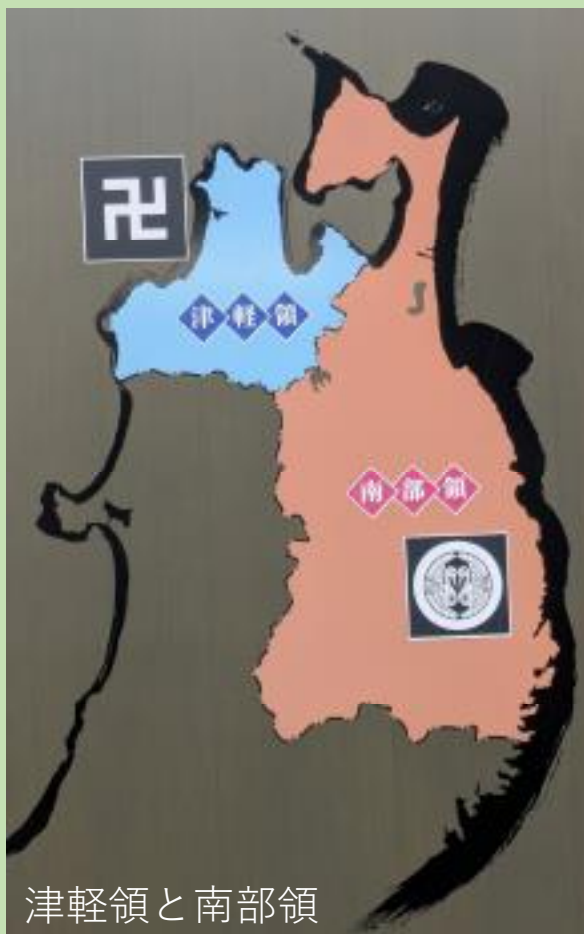
【② ふるさとのあゆみ】 近世のあおもり — 津軽領と南部領の成立 —



稲作（外浜奇勝）



こぎん



津軽領と南部領



馬産（絵馬）



菱刺し

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】 近代・現代のあおもりー青森県の誕生と発展ー

リンゴ栽培のはじまりと発展



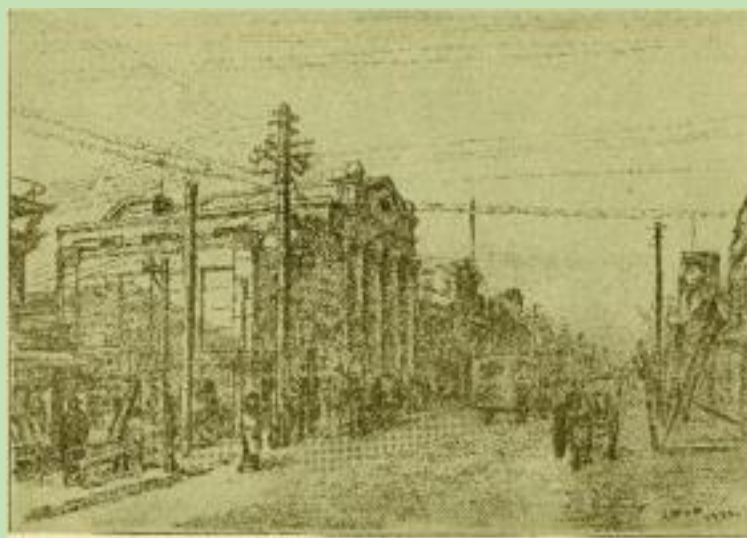
動力噴霧機

青森県の誕生



明治後期の青森県庁

描かれた青森県の風景とくらし



今純三「青森県画譜」八戸市三日町の風景

観光地の芽生え（十和田湖等）



十和田湖鳥瞰図

戦後の復興と生活様式変化



食卓の風景

青函トンネル、
新幹線開通と青森県



新幹線はやて
八戸開業日の様子

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【③ 変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝】

変化に富む四季と青森県がもつ世界・日本で認められた祭り、
大自然の恵み、歴史等を展示・発信

	春(1期)	夏(2期)	秋(3期)	冬(4期)
メイン 展 示	現地にいるようなライブ感・没入感を体感・体験できる ダイナミックな展示で、ふるさとの四季を伝える！			
自然	雪解け、桜、菜の花、新緑、蕪島ウミネコ繁殖地・ツバキ自生北限地帯(天然記念物)	ブナの森(世界自然遺産「白神山地」)、仏宇多(仏ヶ浦：名勝及び天然記念物)、種差海岸(名勝)、釜臥山からの夜景「夜のアゲハ蝶」(世界夜景遺産)	紅葉(特別名勝・天然記念物「十和田湖及び奥入瀬溪流」、法量のイチョウ・北金ヶ沢のイチョウ(天然記念物)	雪、樹氷、ハクチョウ(特別天然記念物「小湊のハクチョウ及びその渡来地」)
祭り	えんぶり(重要無形民俗文化財)	青森ねぶた・弘前ねぶた(重要無形民俗文化財)、五所川原立倭武多	八戸三社大祭の山車行事(ユネスコ無形文化遺産)	下北の能舞(重要無形民俗文化財)

2 新たな県立博物館の役割 イ. 教育普及

学校、他の機関、地域等と連携して、青森県の自然・文化の特色や価値・魅力を理解し、郷土への愛と誇りを育む

1 出前授業の充実

- ・各学校からの要望で実施する出前授業に加えて、地域に焦点を当てた特別出前授業を実施する。

2 移動博物館の充実

- ・博物館等以外の施設や団体からの要望に応じ、その地域にゆかりのある資料を持参し、展示や学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等を行う。

2 新たな県立博物館の役割 イ. 教育普及

3 講師派遣、各種ワークショップ講座の充実

- ・学芸員が各機関や団体の要望に応じ、知りたいテーマについて分かりやすく紹介する講座の講師を務める。
- ・体験活動やものづくり等のワークショップを多彩なプログラムで実施する。

4 体験ルーム（仮称）の充実

- ・県民が個別に体験や学習メニューを選択し、触って遊んで体感しながら学ぶ「体験ルーム（仮称）」を設置する。

2 新たな県立博物館の役割 ウ. 収集・保存

先人の創意と工夫を知り、守り、受け継ぐ

1 ふるさとの自然と歴史から生まれた宝物の収集

- ・ 青森県の宝物とすべき資料を積極的に収集する。

2 適切な保存環境の整備

- ・ 収集した資料を適正に保存できる収蔵施設を整備するとともに、日常的な管理を徹底する。

3 宝物の保護

- ・ 共有された県内の重要資料の保護について、関係機関と連携して必要な助言・協力を行う。

2 新たな県立博物館の役割 エ. 調査・研究

青森県の過去のあゆみと現在の姿を調査・研究し、その成果を多くの人々とわかち合うことで、新しい未来を切り拓く

1 他機関と連携した調査研究の充実

- ・県内外の各大学や研究機関の研究者等と共同調査・研究を実施する。

2 研究成果の発信

- ・成果をまとめた論文や報告書を作成し、関係機関に頒布するとともにホームページで公開する。また、多様な広報媒体を活用し、国内外に発信する。

3 人材養成に係る研修の充実

- ・国や各研究機関が実施する研修に学芸員を派遣するとともに、研修内容を館内の学芸員と共有する。
- ・市町村博物館の学芸員に対する研修会を開催し、県内学芸員の専門知識・スキルの向上や共有化を図る。

3 期待する成果

ア.展示

イ.教育普及

- 子どもから大人まで、楽しみながら青森県の価値を理解し、誇りに思う。
- 家族や友達同士、グループで体験・体感したくなる。
- みんなが青森県の魅力を伝えたいくなる。
- 郷土館やその周辺がにぎわう。
- 県外の方もインバウンドの方も楽しめる。

ウ.収集・保存

エ.調査・研究

- 宝物を積極的に収集し、適正に保存される。
- 青森県の過去のあゆみと現在の姿が調査・研究される。

III. 新たな県立博物館の整備場所候補地について

【整備場所候補地の基本的な考え方及び要素・条件】

1 洪水、土砂災害、津波等の災害リスクが低い場所

県民の財産である収蔵資料について、文化財保護の観点から災害リスクが低い場所に立地することが重要です。

2 “県民”が日常的に行きやすい場所

県立博物館は、県民にとって親しみやすく利用しやすい博物館となる必要があります。公共交通機関や道路等のアクセス・利便性を踏まえることが重要です。

3 “県外からの観光客”が訪れやすい場所

観光客の利用につなげるには、周遊しやすい場所にあり、誘客につなげる取組を図りやすい場所にあることが重要です。

【検討会議における今後の検討】

引き続き、上記の基本的な考え方等についての検討を進め、最終報告に向けて整理していく。

「高校生・大学生が考える未来の県立郷土館」ワークショップ
(報告)

1 高校生が考える未来の県立郷土館

「どのような博物館像が望ましいのか？」をテーマに、ワークショップ形式の課外授業を開催。

(1) 対象者

博物館に興味のある、県立青森南高等学校の生徒（20名）

(2) 開催日時（計4回開催、各回60分）

令和7年7月2日(水)、9日(水)、23日(水)、24日(木)

(3) 高校生からの主な意見

① 青森県立郷土館の課題

- ・体験、体感できる展示、企画が少ない。
- ・展示と解説が難しい、知識がないと分かりにくい。
- ・地域社会との関わりが少ない。
- ・行く動機、行きたくなる魅力がない。
- ・ふらっと立ち寄れない。
- ・障がい者や外国人が楽しめない、多様性に対応していない。
- ・アクセスが不便。

② これからの青森県立郷土館に望まれるもの

- ・AIやVR等の技術を駆使して没入感のある体験型の展示。
- ・伝統工芸、縄文土器、郷土料理を作るなどのワークショップを開催。
- ・クイズやスタンプラリー、ナイトミュージアムなど多数の企画を開催。
- ・説明がなくても子供でも見てわかるような展示。
- ・解説の他、学芸員による講演やトークショー、博物館ツアーを開催。
- ・地域の人々が企画段階からイベントを一緒に作り上げて開催。
- ・地元の事物（名産品、郷土料理、人物、キャラクター等）を取り扱う。
- ・SNSなどを活用して情報を積極的に発信。
- ・グッズ入手やバックヤード見学など来館者への特典。
- ・フォトスポットや談話・飲食スペースなど憩いの空間を設け開放。
- ・バリアフリー化、多言語化、ユニバーサルデザインや色相環を採用。
- ・立地は、市街地かバス等の公共交通機関の便が良い場所。

2 大学生が考える未来の県立郷土館

「これからの県立の博物館に望まれるもの」をテーマに、意見交換を行うワークショップ形式で講義を開催。

(1) 対象者

国立大学法人弘前大学学芸員養成課程の学生・大学院生（20名）

(2) 開催日時（90分を2コマ）

令和7年7月12日(土)

(3) 学生・大学院生からの主な意見

① 青森県の博物館の課題

- ・ 常設展示の分野が偏っている、展示が分野ごとに分断されている。
- ・ 地域を知る、地元の過去を通史で振り返るといった展示が少ない。
- ・ 展示手法が陳腐で魅力が伝わってこない。
- ・ 駅から遠い、バスの便が少ない（特に土日が少ない）。
- ・ それぞれの博物館や美術館が離れていて周遊しにくい。
- ・ 誰にとっても行き易い参加し易いという雰囲気・空間ではない。
- ・ 静かにする必要から親子で行っても会話等を楽しめないイメージ。

② これからの県立博物館に望まれるもの

- ・ 調査研究及び教育普及を重視し、県民と対話しながら、成果を還元し更新され続けるとともに、文化の充実を地域の交流や活性につなげる研究施設としての博物館。
- ・ そこに行けば自然、歴史、生活など青森県の全てがわかり、祖父母が孫にふるさとの昔を語りながら懐かしむことも、県民が過去を知り自主的に青森県の未来を考えることもできるような施設であること。
- ・ 企業との連携により青森県の自然や文化と産業との関わりを提示するなど、青森県を県民をはじめ国内外に広く知ってもらうことで、長期的には地域活性や自然環境保護などに繋げていく博物館運営。
- ・ ボランティアの起用や幅広い層を対象とするワークショップの開催など県民協働の企画を積極的に展開したり、憩いの場となる空間を設けたりすることで、地域住民にとって親しみのある雰囲気を創出する。
- ・ 自然に重点を置きながら、青森県の歴史や文化について、それらの地域ごとの特徴と違いもわかるような、分野横断型の展示が望ましい。
- ・ 資料に実際に触ることができるなど五感で体感し体験でき、バリアフリー化と多言語化を図り、老若男女、国籍、障がいの有無を問わず楽しみながら学べる展示を充実。
- ・ 博物館同士の連携において中心的な存在となる博物館であること。

【参考資料 2】 意向調査結果

○ 整備場所候補地（エリア）

青森市	三内丸山遺跡周辺エリア
弘前市	弘前公園エリア
八戸市	中心街エリア

○ 各市による協力

各市から、交通面や他館連携等による協力意向あり。

【参考資料3】 検討会議のスケジュール（予定）

第1回 5月26日

第2回 6月23日

第3回 7月25日

第4回 9月19日

第5回 1月頃

第6回 2月頃

議 題

- ・ 博物館法改正の状況について
- ・ 県立郷土館の概要、課題について
- ・ 県内、東北各県の博物館の状況
- ・ 先進事例等の紹介
- ・ 県立博物館の整備方針の検討
- ・ 整備場所候補地の基本的な考え方の検討

議 題

- ・ 県立博物館の整備方針の検討
- ・ 整備場所候補地の基本的な考え方の検討

議 題

- ・ これまでの検討内容の整理（中間まとめ）

議 題

- ・ 中間まとめを踏まえた最終報告内容の検討
- ・ 旧館（国の登録有形文化財）の保存等の検討

議 題

- ・ 最終報告内容の検討

最終報告